

上山滿之進の志に共鳴する人々

2016年9月 山口県立大学学生実習



上山満之進翁と防府図書館前身 『三哲文庫』

児玉 識(資料作成)

安溪遊地(口頭発表)

樞密顧問官上山君之碑(三哲文庫記念公園)



碑文：杉敏介(玖珂郡差川村=現岩国市出身、一高校長。品川弥二郎に私淑し、夏目漱石『吾輩は猫である』の津木ピン助のモデル)

揮毫：工藤壮平(岡山県出身の官僚。宮内省御用掛として香淳皇后や高松宮妃・三笠宮妃に書道を教えた)

彫刻：石勝

石材：宮城県石巻市の稲井石/井内石/仙台石(黒い粘板岩)

台石は防府市矢筈ヶ岳から

樞密顧問官從二位勲一等上山君碑君諱八滿之進蔗庵卜號
又明治二年九月廿七日周陽江泊邑二生ル夙ニ經世ノ志ヲ抱
キ留勉大學ノ業ヲ卒ヘテ直ニ官途ニ就キ頻ニ要路ニ膺ル昭
和十年樞密顧問官ニ任シ同十三年七十歳ヲ以テ薨ス君天
資明毅事ニ當リテ審力ニ究メ之ニ施シテ惑フコトナシ明治
四十一年山林局長ト為ルヤ林政ノ不振ヲ憂ヘテ國有及公
有林野ノ整理ヲ断行シ尋テ治山治水事業ノ第一期計畫ヲ
創定シ後年尚其完成ニ力ヲ盡シ昭和十二年第二期計畫ノ
設定ヲ見タリ大正三年農商務次官ト為ルヤ米價ノ暴變ニ
遭遇シ深ク意ヲ用ヒテ國民生活ノ不安ヲ除カントトテ圖ル
爾來米穀政策ニ關シテ益研鑽ヲ積ミ言論ニ文章ニ剴切的確
ナル意見ヲ發表シ輓近ニ於ケル米穀制度ノ制定ニ天ナル推
進力トナレリ大正十五年出テテ臺灣總督ト為ルヤ財界ノ動
搖ニ際會シ所信ニ邁往シテ機宜ヲ制シ全島平靜善ク民心ヲ
維持スルヲ得タリ君正義ヲ尚ヒ清廉ヲ守ル貴族院ニ在ルヤ
直言硬論卓越セル識見ヲ以テ濟民ノ策ヲ説キ秋霜ノ辯ヲ
以テ綱紀ノ肅正ヲ叫フ亦議政壇上ノ一偉觀タリ君歪曲苟
モ假サスト雖故舊ニ篤ク郷黨ヲ念フコト深シ敷山城ニ泯滅
セシ孤忠ノ遺址ヲ彰スモ家産ヲ傾倒シテ三哲文庫ヲ設ケル
モ皆青年ノ志氣ヲ鼓舞シ講學ヲ奨勵セン力為ニ非サル莫シ
吾等君ノ傳記ヲ編ミ遺文ヲ輯メ碑ヲ此地ニ建ツルモ營ニ永
ク君ノ徳業ヲ傳ヘントスルノミニアラス亦郷黨子弟ヲシテ奮
興スル所アラシメ以テ君ノ志ヲ成サントスルニアリ

昭和十六年十一月

第一高等學校名譽教授從三位勲三等杉敏介撰

別當正四位勲三等工藤壯平書

上山君記念事業會建之

碑文にこめられた故郷の若者への期待

貴族院では直言 硬論 卓越した識見で濟民の策を説き、秋霜の弁で綱紀の肅正を叫ぶ

これは議政壇上の一偉観である 君は歪曲を仮にもしないが、故旧に篤く郷党を念うこと深し

敷山城に泯滅(ビンメツ)した孤忠*の遺址を彰することも 家産を傾倒して三哲文庫を設けることも **みな青年の志気を鼓舞し講学を奨励するためであった**

*矢筈ヶ岳南面八合目の山城跡。1336年(延元1・建武3)南朝方に属した周防国府の目代摂津助公清尊(せつつじょこうせいそん)、小目代助法眼教乗(じょほうがんきょうじょう)が足利尊氏に敵対して拠った。城は石見・長門からの大軍勢に攻められ落城。[日本大百科全書・小和田哲男から抜粋]

資料1 『三哲文庫』の開館を喜んだ防府市民

昭和16年4月1日/3月30日開館 一日の入館者数
平均 4月198名、5月165名、6月189名……

図書購入費1900円＋毛利公から1000円の寄付

開館時の所蔵4377冊中、寄贈2814冊(64%)

うちわけ 上山満之進 1750冊

松村茂樹(先代の油屋以来の珍書)450余冊

玉木恣夫160余冊 上山忠治31冊 尾中郁太37冊

大澤アイ(周南家庭実科女学校長)60冊 等々

中村健次郎(元高松高商教授)450冊

友田太一(徳山鉄板＝現日新製鋼)5千から1万冊

資料2 『三哲文庫』への上山翁の思い

一切条件を付けることはありません。防府図書館とつけられてもしいて異論はないのですが、ねがわくは三哲文庫となづけていただきたい。三哲とは、吉田松陰先生、品川弥二郎先生、乃木希典先生です。一生がむしろ不遇であったために、かえって世の人があこがれ、あおぎみることでは、三哲の右に出る者がいないのではないのでしょうか。防長の先輩には立派な方も数多いのですが、勲章や爵位が立派すぎて、人格が覆い隠される場合もなきにしもあらず。三哲の徳風をかねてから敬慕してきた私は、その遺墨を集めて「三哲遺芳」という本にまとめたことがあります。このたび私が寄贈しようとする図書館で学ぶ人が、三哲の遺風を顕彰されることを心からねがっています。(上山「覚書」)

資料3 上山翁と台湾、陳澄波の絵

上山の台湾島民への惜別の辞

(台中で皇族が襲撃された責任をとって)

不肖今茲に任を去ると雖も我が台湾を愛するの念慮は愈々深く前途益々多端なるべき我が台湾の爲に餘生の有らむ限り微力捧げる覚悟である。

私はいまここに辞任することになりましたが、私が台湾を愛してあれこれとおもいめぐらすことは、いよいよ深く、前途ますます多方面に発展するであろう我が台湾のために、余生のあるかぎり微力をささげる覚悟です。

資料3 「好総督」への台湾側の反応

- ・在任中、台湾銀行の破綻を防いだ手腕を高く評価 辜顯榮(こけんえい、1866-1937) 貴族院議員
- ・「厳肅端正なる態度に嘆賞の聲を放つ者も多く」 (新聞報道)



- ・退任から10年、上山元総督没すの報に、台北と台中で上山の追悼式が行われた。
- ・伝記編纂と記念碑建立にあたっては、台湾側から1万円を超える寄付が寄せられた。

資料3 陳澄波の絵が神隠しからよみがえった

陳家のアルバムの写真



当時の新聞記事



祖父に会えたようだと言喜ぶ陳立栢氏



陳澄波文化基金会のフェイスブックから

現場のようす

資料3 嘉義市長から防府市民への挨拶文

防府のみなさまは、よく陳澄波のこの絵を今日まで大切に残してくださいました。

上山氏は、在職中、日台における文化交流の促進に多大なる貢献を遂げられました。純然たる絵画制作の委託ですが、一件の委託、一枚の絵画の背後に潜む史料は、今後もみなさまの発掘調査と研鑽を通して、さらなる重要な成果が今後も読み解かれ、各種フォーラムで発表されることでしょう。

資料3 蔡英文総統の陳澄波特別展での 70年ぶりの公的な謝罪と家族の顕彰

陳澄波氏は、台湾の近代史において最も偉大な画家の一人です。彼は油彩の化身であり、二・二八事件(1947年)の犠牲者です。台湾人が彼の名前を忘れることは決してありません。

七〇年前、陳澄波氏が世を去った時、生前の作品を所蔵していた多くの友人らは、その煽りを受けて、巻き添えになるのを恐れ、中には彼の絵を焼き払う人たちもいました。

陳澄波氏の妻である張捷夫人は、そんな厳しい情勢のなか、身の危険も顧みず、自らの命を懸けて数少ない遺作を守り抜きました。

上山忠男さんと陳重光さんの出会い



追記1 最近判明したこと——晩年の政治活動

- 上山は、晩年まで実に活発な政治活動を続けた。
- 天皇の補佐役である枢密顧問官という立場だけでなく、妻が昭和天皇の女官であったことから、直接的なチャンネルを持っていた。
- 天皇は、政治的な決定においては必ず輔弼役の大臣の副署名を必要とする天皇機関説にもとづく体制はしだいに攻撃され、昭和11年の二二六事件によって最大の危機を迎える。上山は、この時以後、天皇が直接軍部を押さえうるという意味で、持論の天皇機関説を封印することになった。

追記2 最近判明したこと——晩年の政治活動

- 「教学刷新評議会」での行動——人格形成無視教育への抵抗
- 教学刷新：1935年(昭和10)2月の帝国議会における美濃部達吉の天皇機関説問題に発端し、翌年10月の教学刷新評議会(文部大臣の諮問機関)の答申に基づいて展開されはじめ、第2次大戦敗戦時まで継続された、政府・軍部・民間右翼による、日本精神と国体論とに立脚した教育・学問・思想の統制の政策および運動。
- 議事録によれば、上山は毎回出席し、疑問を呈し、強硬な反対意見を述べ続けた。
- 中央の教育に絶望して、郷土の若者の学びに希望をつないだ、その現れが三哲文庫だった。

品川弥二郎(1843-1900) 萩椿東生まれ

(松下村塾の増築のおり)
先生が土を運べば品川が鋸を
振って左官となり、山縣が大工の
真似をする
(『長州の天下』)

品川が土を落として、それが顔を
直撃したときの松陰先生の言葉
「弥二よ、師の顔にあまり、
泥を塗るものではない。」
(一坂太郎著「時代を拓いた師
弟」)



トコトンヤレ節 作詞・品川弥二郎 作曲・大村益次郎

1. 宮さん宮さん お馬の前に
ひらひらするのは 何じゃいな
トコトンヤレ トンヤレナ
2. あれは朝敵 征伐せよとの
錦の御旗じゃ 知らないか
トコトンヤレ トンヤレナ
3. 一天万乗の 一天万乗の
帝王に手向かい する奴を
トコトンヤレ トンヤレナ
4. 狙い外さず 狙い外さず
どンドン撃ち出す 薩長土
トコトンヤレ トンヤレナ
5. 音に聞こえし 関東武士
どっちへ逃げたと 問うたれば
トコトンヤレ トンヤレナ
6. 城も気概も 城も気概も
捨てて吾妻へ 逃げたげな
トコトンヤレ トンヤレナ
7. 国を追うのも 人を殺すも
誰も本気じゃ ないけれど
トコトンヤレ トンヤレナ
8. 薩長土肥の 薩長土肥の
先手に手向かい する故に
トコトンヤレ トンヤレナ

乃木希典
(1849-1912)
1896-97
第3代台灣總督

長府出身



<http://www.sakai.zaq.ne.jp/duehv307/img385.jpg>

水師營の会見

作詞 佐々木信綱 作曲 岡野貞一 尋常小学読本唱歌(十卷) 明治43年7月

旅順開城約成りて
敵の將軍ステッセル
乃木大将と会見の
所はいずこ水師營

庭に一本棗の木
弾丸あともいちじるく
くずれ残れる民屋に
今ぞ相見る二將軍

乃木大将はおごそかに
御めぐみ深き大君の
大みことのり伝うれば
彼かしこみて謝しまつる

昨日の敵は今日の友
語る言葉もうちとけて
我はたたえつかの防備
かれは称えつ我が武勇

かたち正して言いいでぬ
此の方面の戦鬪に
二子を失い給いつる
閣下の心如何にぞと

二人の我が子それぞれに
死所を得たるを喜び
これぞ武門の面目と
大将答え力あり

両将昼食共にして
なおも尽きせぬ物語
我に愛する良馬あり
今日の記念に献ずべし

厚意謝するに余りあり
軍のおきてにしたがいて
他日我が手に受領せば
ながくいたわり養わん

さらばと握手ねんごろに
別れて行くや右左
砲音絶えし砲台に
ひらめき立てり日の御旗

上山満之進

防府市江泊出身

(1869～1938)

1926-28 第11代台湾総督

2歳から高雄で暮らした
國分直一先生の言葉

上山満之進の 思想と行動

増補改訂版

児玉 識



「上山さんは、被差別部落に対して強い関心をお持ちで、差別に対して強い抵抗心をお持ちでした。高砂族は気の毒だ。いつまでもあの状態では可哀想だ。源流を明らかにすることに大学としての責任があるのではないだろうか。そうすればプライドも自覚も生まれるだろう……」

1935年 人類学・言語学の金字塔(上山満之進総督の個人的支援)

昭和五年三月三日

臺灣日日新聞

上山氏の奨励金に依る

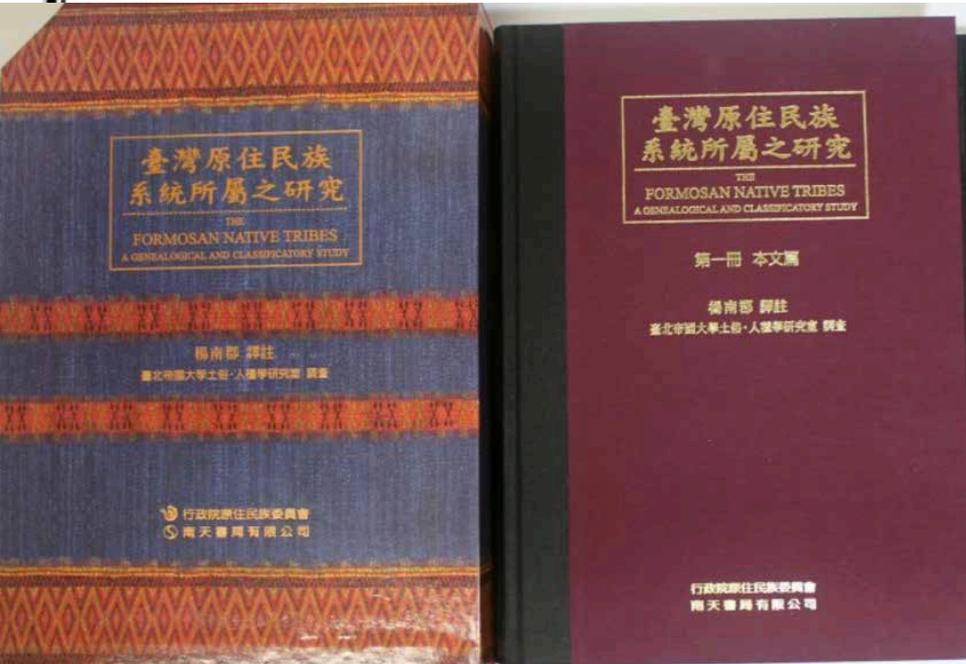
高砂族の研究完成

臺北帝大の研究室の手て

東京刀江書院から

土俗人類学教室 移川教授 宮本助手、馬淵副手
 言語学教室 小川教授、滝井大
 校外附教授

昭和五年上山元總督は臺北帝大へ高砂族研究資金として一萬三千餘圓を贈り奨励する所あつたが、帝大に於ては直ちに文政學部土俗人類學及び言語學の兩研究室を以て研究スタッフを編成調査員を警界に派し資料の蒐集に努め、昭和七年夏には實地調査を終へたので爾來保蔵は膨大なる資料に埋もれながら整理起稿に着手してゐたが、此種千二百六十頁の大冊となつて完成、近江東京刀江書院より刊行される事となつた、既に本研究室は全三冊に分れ、土俗人類學の分は内二冊「高砂族の系統及び所屬の研究」であつて本編五百頁資料篇二百六十頁、高砂族の系統分類及びその移動を究明したものであり、言語學の分は「高砂族傳説」で五百頁、高砂族の傳説を概観日本群島で收め書體文字による發音を附し字句の解釋を施してゐるが、本島に立脚した獨自の研究として展彩を放つ取組であらう、因みにこのアルバイトの関係執筆者は左の通りである

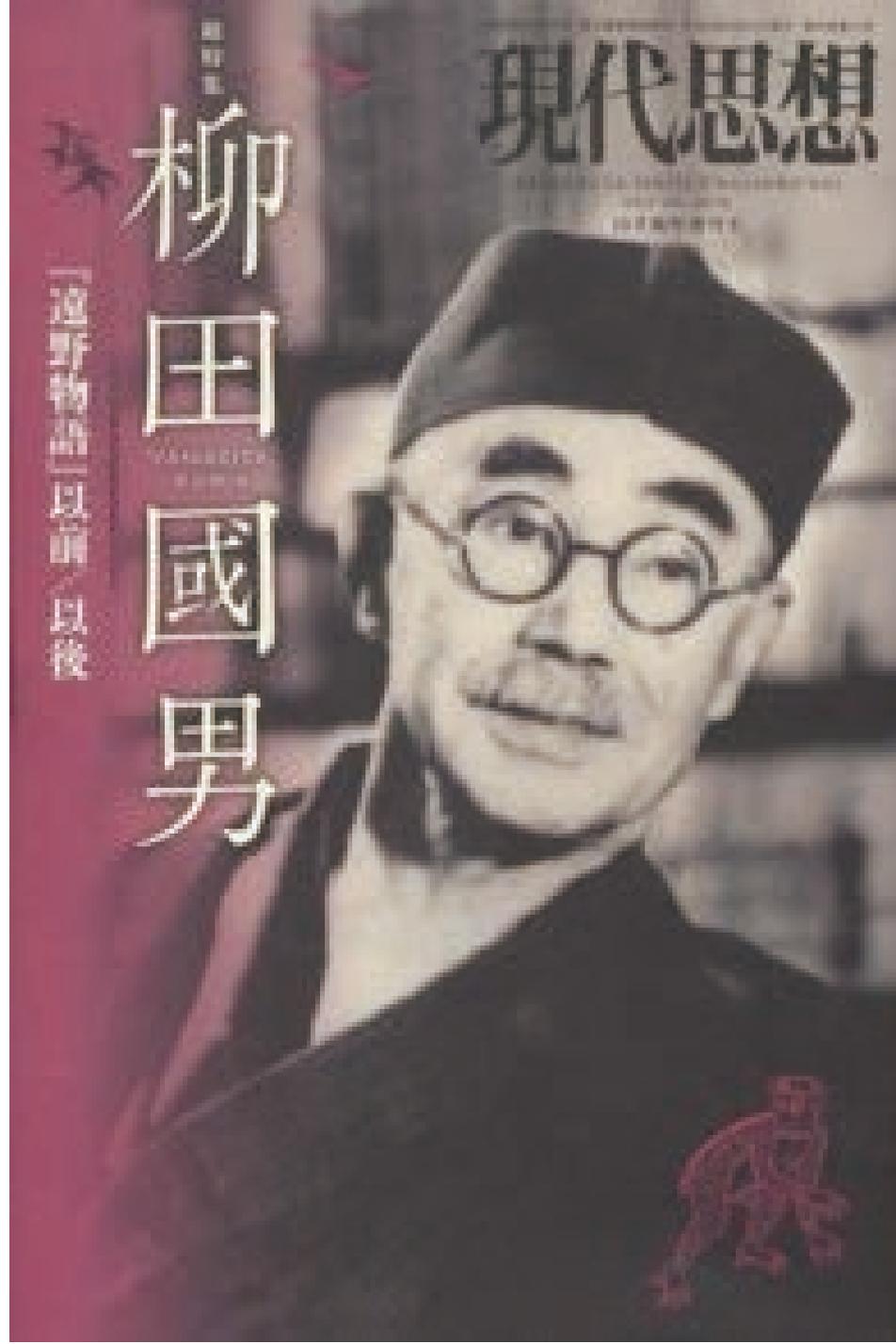


不滅の価値・最近の復刻版

上山との切磋琢磨で
日本民俗学を生んだ
柳田国男の知遇を得て
民俗学を志した宮本常一



<http://hayabusa-3.dreamlog.jp/archives/51272614.html>



湾生の小澤太郎 (1906-1996)



30代 小澤太郎

- 上山満之進に見出され台湾総督府へ
- 「**偏狂且つ性急な同化政策を即時停止**させて戴きたい。全島の警察に対し、このことを指示させて戴きたい」

警務局警務課長兼衛生課長就任時(1941)の長谷川清総督への言葉

小澤太郎山口県知事(1953-60)

- 1955年、秋吉台が米軍の射爆場となる計画への官民学あげての反対運動の先頭に立つ。
- 米軍司令部に乗りこみ「若し爆撃演習を強行するなら、**知事自ら現場に座り込む**とまで言った」
(自伝『風雪』)



小澤知事 蓬萊米の父・磯永吉博士 (1886-1972) を山口県農業顧問に



臺灣蓬萊米的誕生地

本建物建於 1925 年 02 月 28 日，係日治時期臺北帝國大學前身「高等農林學校」之作業室，前臺北帝國大學日籍教授、人稱「臺灣蓬萊米之父」的磯永吉博士，曾在此進行選育蓬萊米品種之相關研究。光復後交由臺灣大學農藝系使用至今，並於 2009 年 07 月 28 日經臺北市政府文化局公告為直轄市定古蹟。

Workshop of Advanced Academy of Agronomy and Forestry
---Incubator of Taiwan Ponlai Rice

This building was built on Feb 28, 1925, when Taiwan was under Japanese colonial rule, and was the workshop of the Advanced Academy of Agronomy and Forestry (the predecessor of Taihoku Imperial University). Dr. Eikichi Iso, a former professor of Taihoku Imperial University and also the "Father of Taiwanese Japonica rice (Ponlai Rice)," worked in this building when breeding and selecting Japonica rice varieties. This building is designated as a municipal historic site by the Department of Cultural Affairs, Taipei City Government on July 28, 2009.

磯博士が、山口県立農業試験場の新入職員に与えた言葉
(北宋太祖の言葉)



<http://nicecasio.pixnet.net/blog/post/394765688>